

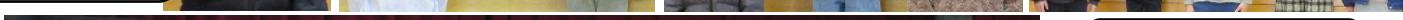
1月 22日(木) 音読集会・3年環境学習

【世代が異なると育ってきた環境も異なる】

昭和生まれのわたしは、子どもの数も多かったためか、1クラスの人数も多く、同級生や兄弟との比較という叱咤激励も多く、大きな声で指示をだす先生がほとんどで、今と比較すると少々雑であったように感じるのわたしだけでしょうか。丁寧に話を聞き、対話してくれたり、褒めてくれたりと、ここ数年で学校も大変変化しているように思います。またAIの時代こそ、大人が責任をもつことや人とのかかわり方を見つめたいものです。時代の流れにあった環境づくりの大切さを感じる今日この頃です。



2年
「ありがとう」

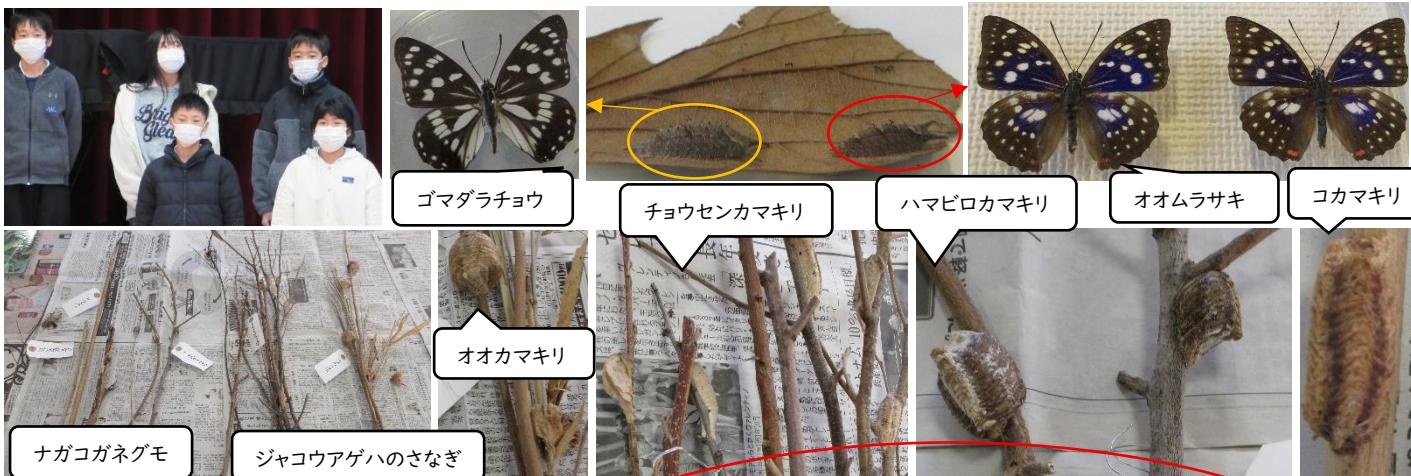


3年「雪が降る」



4年「小鳥のしらせ」







タカシゴンロカミキリ
ノグロミの枯木(小粒)
2018.7.1



幼虫は枯れた竹を食べる



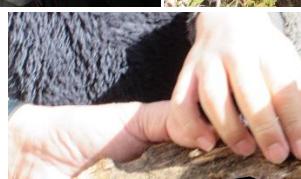
冬越しをする生き物を学びました。南の国から来る燕、北の国から来る鴨や白鳥は、餌が確保しやすい日本へ来ます。



クワガタ幼虫



割った木から出てきたクワガタ幼虫は、確かに、お尻がきれいで、縦に割れていました。



子どもたちは、小さな穴をよく見て、冬越しのクワガタを小さな手で上手に外へ出すことに夢中



準備していただいた木からたくさん出てきました。クワガタの幼虫だけでなく、クワガタも冬越ししていました。